

注: 太字は定期接種(一定の年齢、月齢で原則としてすべての子どもに接種)、細字は一部の特定対象者に接種。

予防接種種類	出生時	6w	10w	14w	9-12m	16-24m	5y	10y	16y
BCG ^{*1} TB(tuberculosis)	BCG①								
DPT(三種混合) ^{*2} Diphtheria,Pertussis,Tetanus		DTwP①^{*12}	DTwP②^{*12}	DTwP③^{*12}		DTwP④	DTwP⑤	TT^{*13}	TT^{*13}
ポリオ ^{*3} Poliomyelitis	OPV①	OPV②	OPV③	OPV④		OPV⑤			
B型肝炎 ^{*4} Hepatitis B	HepB①	HepB②^{*12}	HepB③^{*12}	HepB④^{*12}					
Hib ^{*5} Haemophilus influenzae type b		DTwPHibHep①^{*12}	DTwPHibHep②^{*12}	DTwPHibHep③^{*12}					
肺炎球菌(小児用) ^{*6} Pneumococcus									
ロタウイルス ^{*7} Rotavirus									
MMR ^{*8} Measles,Mumps,Rubella									
麻疹 Measles						麻疹①	麻疹②		
おたふくかぜ Mumps									
風疹 Rubella									
水痘 Chickenpox (Varicella)									
インフルエンザ Influenza									
A型肝炎 ^{*9} Hepatitis A									
髄膜炎菌 ^{*10} Meningococcus									
日本脳炎 Japanese Encephalitis						日脳①	日脳②	←一部の地域で。	
パピローマウイルス ^{*11} Human papillomavirus									

《以下は一般の方にも理解いただくために本図作成者が加えた説明です》

- *1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時に接種します。
- *2 日本ではDPTですが一般には“DTP”と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaPが、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- *3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- *4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように2004年に勧告し、現在では世界のほとんどの国で乳児期から定期接種に加えています。
- *5 Hib(Haemophilus influenzae tyoe b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌です。
- *6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。
- *7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(ロタリックスとロタテック)が市販されています。
- *8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- *9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。
- *10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。このワクチンはわが国では未発売です。
- *11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix)とガーダシル(Gardasil)の2種類のワクチンがあり、同一種類で完了します。
- *12 一部地域ではDTwPHibHep(DTwP、HibおよびB型肝炎の5種混合ワクチン)が使用されています。
- *13 TT: 破傷風トキソイドの追加接種です。

《2012年10月4日版からの主な記載変更事項》

特になし